

平成30年第3回 日高市教育委員会会議録

開催の日時	平成30年3月20日（火曜日） 午後1時25分から4時25分まで
会議開催の場所	市役所503会議室
会議の公開又は非公開の別	公開。ただし人事案件については非公開。
非公開理由	個人に関する情報が含まれるため。
出席委員の氏名	中村一夫（教育長）・矢次健志・島村由起男・神山好子・井上三枝
欠席委員の氏名	なし
説明員の職氏名	教育部長 関口正明・教育部参事 島津芳久・教育総務課長 鈴木雅広・学校教育課長 稲村浩之・学校教育課副参事 松崎努・生涯学習課長 関根俊介
出席した事務局職員の職氏名	教育総務課主幹 菊地誠治
傍聴者数	2人
会議資料の名称	会議次第・教育長報告・議案第8号から報告第1号・配布資料一覧

議題及び決定事項等

- 議案第8号 日高市教育委員会事務局組織に関する規則の一部を改正する規則  
原案どおり可決
- 議案第9号 平成30年度日高市教育行政重点施策の決定について  
原案どおり可決
- 議案第10号 日高市教育振興基本計画の一部改正について  
原案どおり可決
- 議案第11号 日高市社会教育指導員の委嘱について  
原案どおり可決
- 議案第12号 日高市公民館の副館長の任命について  
原案どおり可決
- 議案第13号 日高市スポーツ推進委員の委嘱について  
原案どおり可決
- 議案第14号 日高市教育委員会表彰に係る被表彰者の決定について  
原案どおり可決
- 議案第15号 日高市教育委員会職員の人事について  
原案どおり可決
- 報告第1号 専決処理について  
原案どおり承認

## 会議の経過

1) 前回会議録の承認事項 出席委員異議なく承認

2) 教育長報告の要旨

○校長会議、教育委員会部課長会議における教育長指示・伝達内容について報告した。

○その他、各部課長から、実施した事業等の結果と今後の予定を報告した。

3) 教育長報告についての質疑及び答弁の要旨

### 【教育長報告関連】

(委員) 学校自己評価について、あいさつの部分で気になる点として、ある学校では、教員は低く評点をしている一方で保護者の評価は高い。教員の自己評価が厳しいのか、裏を返すと子どもたちは、先生にあいさつをしていないのではないかと、いうようにも読み取れる。

(学校教育課長) もう一方で、学校の教員が望むあいさつの姿に達していないということもあるのではないか。あいさつができるという基準が、教員と保護者との間で意識が異なる点もあると思われる。

(委員2) この評価は先生へのあいさつだけでなく、子どもたちの生活態度を見て、あいさつが出来ているか出来ていないかの評価ではないのか。

(学校教育課長) 先生へのあいさつだけでの評価ではない。

(委員3) 評価の点数については、公開か。

(学校教育課長) 公開する。

(委員3) 公開であれば、評価点数を見て、子どもたちも感じる所があるので良いのではないか。

(教育長) 評価の指標が、学校ごとに異なる部分がある。指標の説明が必要と考える。数字だけ出して終わりではなく、その後の指導に繋げていくことが重要である。

(委員) 学校によって、評点に対して達成度が低い場合がある。学校によって基準が違っていると比較が出来ないので、基準は統一したほうが良いのではないか。

(学校教育課長) 学校ごとに基準を設けており、あくまでも自分の学校における自己評価であり、学校ごとに子どもたちを見て、この子たちならもっと出来るなどの柔軟な評価をしているため、統一の基準とはしていない。指標の基準についての説明ができれば、保護者にも納得していただけるものと考えている。

(教育長) 基準の明確化を考えていきたい。

(委員) 教育施設の長寿命化計画について、全体を改修していくことは予算的にも困難であるので、統廃合や民間資本の活用も取り入れていく必要があるのではないか。

(教育部長) 公共施設総合管理計画で136億の不足が見込まれていたが、今回の長寿命化計画により約36億円の不足まで圧縮したものである。圧縮の方法については、施設を60年の周期で維持していく流れを長寿命化によって、建替えではなく長寿命化改修をすることにより、80年の周期に延命していくことで圧縮

に努めるものである。また、委員からいただいたご意見については、今後、長寿  
命化計画により改修をしてもまだ財源の不足が生じるので、公共施設の再編計画  
を立てる中で検討していくこととなる。

(委員) 小中学校事務の共同処理実施要綱について、事務の最終責任は。

(教育部参事) 各学校で事務を実施する中で、最終的には校長となる。

(委員) 今回、共同で処理することとした事務の中で、齟齬が生じた場合、監督責  
任はだれになるのか。

(教育部参事) 共同で事務を進めても、最終的には、各学校での内容となるので校  
長となる。

### 【教育長報告：資料1 関連】

(委員) ネット社会と社会教育をテーマに生涯学習フォーラムが開催されたところ、  
SNSの功罪等、会場全体で積極的な討論が行われたとあるが、要点は。

(教育長) 子どもたち含め、SNSの便利なところや弊害について、洗い出したと  
ころである。

(教育部長) 親がネット社会についていけずに、子どもに教わることもあるし、親  
が子どもに対して、使用の制限をするときなど、相互に理解していかないと、便  
利に上手に使っていくことは難しいということであった。相手が見えない状況で  
あるため、色々なトラブルが生まれることもあるということで、親と子で少しで  
も会話しながら便利に上手に使っていこうということがポイントであった。

(委員) 上手に使っていこうということが主眼であったということか。

(教育部長) 世の中からなくすわけにはいかないもので、そのような内容を主眼に置  
いていた。

(委員) 小中一貫教育について、原則的に部活動は、小学生にも条件付きで参加さ  
せる方向性で良いか。

(教育部参事) それらの内容も含めて、地域の方々のご意見をいただきながら進め  
ていく必要がある。全体的に子どもの数が減少しているため、活動人数を増やし  
たいとは考えている。

(委員) 私立志望で早期に進路が決まった生徒による小学生への学習指導について、  
進路が決まった生徒が、小学校に行って児童に教えるということか。

(学校教育課長) 高校に進学するまで、時間の余裕があるので、今まで努力してき  
た成果や進学する喜びを後輩である児童に教えることができればよいと考えたも  
のである。

(委員) 良い案であると思うが、注意してほしい点は、進路の決まった生徒が、児  
童に教えに行く際の行動などにより、受験時期の早い私立ではなく公立を志望す  
ることで、進学が決まってない生徒が、集中力を削がれることなどがないように  
配慮をしてほしい。また、幼保連携について、公立、私立に関わらず実施するの  
か。

(教育部参事) 現状でも実施している地区については、引き続き実施していく方向である。その他の地区についても検討している状況である。

(委員) 幼保連携について、小中一貫教育の構想を進める中で、組み込むことができる千載一遇のチャンスであるので、他の地区も実施していく方向でないと、小中一貫教育、コミュニティ・スクールの効果が薄くなる。幼保の年齢の時に、成長の礎ができてしまうので、その時期から取り込まないと、子育ての継続性がなくなってしまう。

(学校教育課長) 現状は、他地区においても幼保連携は実施している。

(委員) 実態は、連携になっていないと感じている。小・中学校との連携で一番良い部分は、目が行き届くということである。子どもと長く関わることで重要なのは、その子の家庭との接点を作ることが、地域ぐるみの育成になるので、そこに幼児教育から連携していくことが大事である。現状は、連絡は取り合っているかもしれないが、少なくとも連携と呼べるものではないと感じている。小学校に上がる段階では、すでにその子どもの家庭環境を含め把握している状況を作り出さないといけない。

(学校教育課長) 実態として、子どもたちの様子や特徴などを幼保に確認しているが、その回数などを増やしていけるように努力したい。

(教育長) 今後、対応出来そうな部分をご提案いただいたので、参考にしていきたい。

(委員) 地域の関連性において、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と地域学校協働本部（地域住民・団体等による緩やかなネットワーク）の関連性と校長の権限とのバランスがいまひとつ理解しづらい部分がある。地域をまとめる力量が、さらに校長に求められていく。

(教育部参事) 現時点では、具体的な内容ではなく、一般論をまとめたような資料の提供となるため、理解しづらい部分があることは否めない。

(委員2) 例えば、学校運営協議会と地域学校協働本部の関係を自転車に例えるなどすると、どの部分が両輪で、運転手は誰か、荷台に乗る部分は何かなどイメージが付きやすいのではないか。

(委員) これらの事業を取りまとめて、推進していくのは一大事業ともいえるものであり困難が想定されるので大変なことである。

(教育部長) 新しく組織していくのではなく、学校評議委員会など、すでにある組織をベースに移行していくことを想定している。ポイントは、地域学校協働本部全体を回していく地域コーディネーターをどうするかではないかと考えている。

(委員) 現在、それぞれの組織で活動いただいている方については、現状と何が変わるのかが心配する点である。それぞれの関連図、目的など整理することが大事である。

(教育長) 地域全体で、地域の子どもたちをどうしていきたいか皆で話し合いながら、意見を集約して進んでいく方向である。現在の形と似ているが、一番の違いは、地域として、子どもたちをどうしていきたいかをさらに出していただくことと考えている。

(教育部長) 組織もどんどん成長していくものであり、最初から完璧にいくものではない。ある程度の形を整えて、スタートした後に成長していくことであると考えられる。

(委員3) 学校運営協議会と地域学校協働本部については、異質なものと感じており、両輪として説明していくのはどうかと考えるが。協働本部はある程度、地域の関係者が子どもたちの活動をするということで、何を目的とするかはイメージできるが、学校運営協議会については、何を目的としていくのかが分かりづらい。

(委員) 学校運営協議会にはコーディネーターが入ってくるので、両者をつなぐ役割になるのではないか。

(教育部参事) コーディネーターが入ることが望ましいと言われている。

(教育部長) 学校の方針を決める際に、学校運営協議会の意見を聞きながら、例えば話し合いの中で、地域の協力が必要であるなどのときに地域学校協働本部との協力も必要となるので連携していくというようなイメージである。校長が独断で決定するのではなく、地域の方々と連携するような方向である。

(委員) そうすると、結局、今までと何が変わるのかという話になるので、もっとシンプルに何が変わるのかという点を理解しやすいように整理したほうが良い。

(教育長) 現状でも地域の方々が連携している点もあり、まったくのゼロから進めるわけではないので、いただいたご意見を参考にしながら進めていきたい。

#### 4) 議案についての質疑及び答弁の要旨

議案第8号について 質疑なし

議案第9号について 質疑なし

議案第10号について 質疑なし

議案第11号から報告第1号について 非公開のため記載せず

#### 5) その他

##### (1) 次回定例会の日程等について

- 4月定例会：4月27日（金曜日）午後1時40分から 委員了承
- 5月定例会：5月23日（水曜日）午後1時40分から 委員了承

##### (2) その他連絡事項

- 新採用・転入教職員着任式・歓迎会  
4月2日（月曜日）午後2時から【生涯学習センター】
- 平成30年度小中学校入学式  
4月9日（月曜日）午前【各小・中学校】
- 平成30年度入間地区教育委員会連合会総会  
4月23日（月曜日）午後【坂戸市】